

福岡県米麦大豆生育情報

平成29年 1月23日
福岡県農林業総合試験場

麦の生育概況と対策

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	11月19日～1月18日 (61日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	8.8	13.5	4.7	219	225
前年差(比)	-0.2	+0.3	-0.7	134%	123%
平年差(比)	+1.4	+1.5	+1.3	98%	183%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦の生育 [小麦:11月18、22日播種、大麦:11月25日播種]

11月19日～1月18日の平均気温は平年より1.4℃高く、降水量は83%多く、高温多雨で経過した。

出芽は、小麦で平年並～4日早く、大麦で平年並であった。1月19日現在の生育は、小麦では、草丈は平年より10～48%高く、茎数は農産部で平年より6～18%多く、筑後分場で平年より13～19%少ない。大麦では、草丈は平年より9～22%高く、茎数は平年より約30%多い。主稈葉数は、小麦では平年並～1.3葉多く、大麦では0.9～1.0葉多く、11月下旬播きの生育は平年より進んでいる。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

ほ場の湿潤状態が続いており、排水対策が重要である。排水溝の溝さらえを行って排水口を整備し、地表水を排水する。ほ場が乾燥した時点で、土入れを兼ねて作溝する。

(2) 踏圧・土入れ

踏圧・土入れは倒伏防止や雑草防除、排水対策のため必ず実施する。踏圧は土壌水分が低いときに、節間伸長開始期までに2～3回程度、土入れは3月上旬までに2～3回実施する。

(3) 雑草防除

雑草の発生量はやや多い。雑草の草種や発生状況を観察し、茎葉処理除草剤を適期に処理する。除草剤は普通作雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(4) 追肥

1回目の追肥(分けつ肥)は、小麦・食料用大麦・裸麦では、基準量を1月下旬に施用する。ビール大麦は基準量を1月下旬～2月中旬に施用する。追肥に緩効性肥料を用いる場合も1月下旬に施用するが、施肥後に土入れを実施して確実に覆土を行う。

小麦・食料用大麦・裸麦の2回目追肥(穂肥)は3月上旬に施用する。

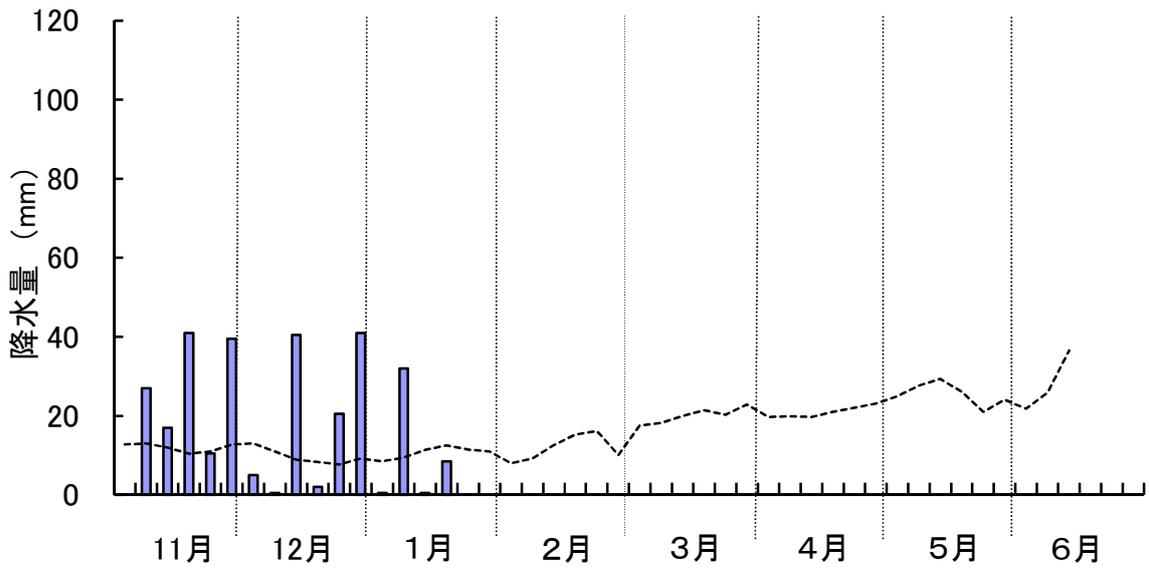
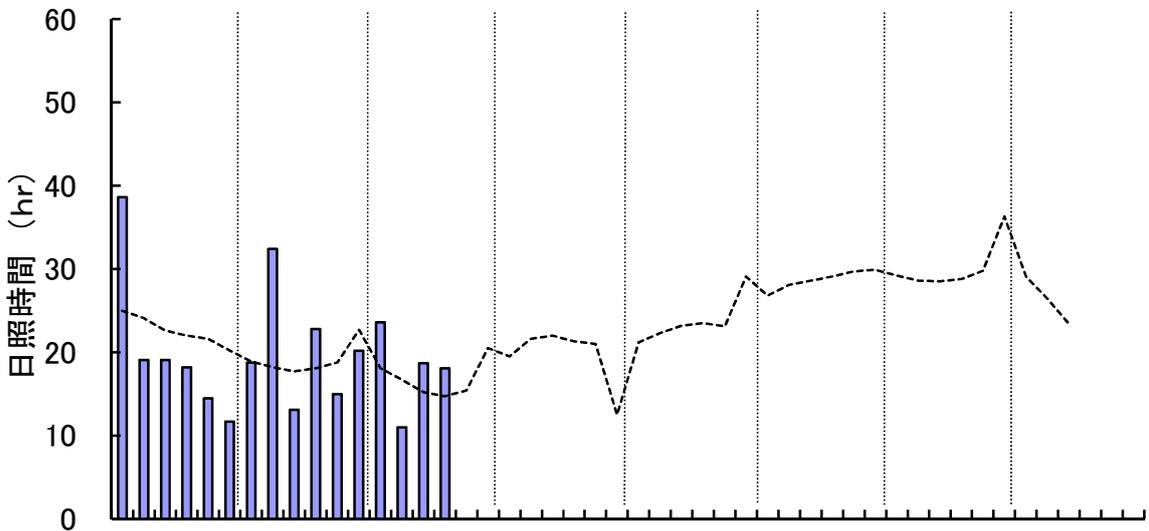
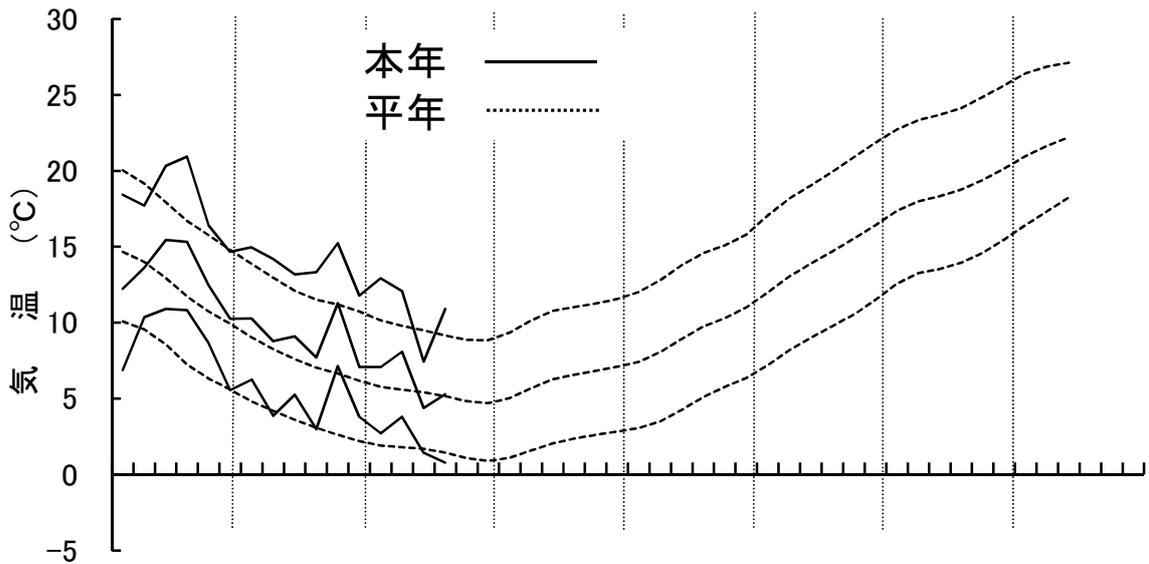
平成 28 年播 麦作況試験

(農林業総合試験場)

調査 場所	播種 期 月.日	品種名	年次	出芽期 月.日	1月19日		
					草丈 cm	茎数 本/m ²	葉数 L
農 産 部	11.18	チゴイヅミ	本 年	11.25	17.3	523	5.2
			前年比(差)	-2	93	96	+0.6
			平年比(差)	-4	148	118	+1.2
	11.25	ほうしゅん	本 年	12.6	10.5	554	4.7
			前年比(差)	+1	88	86	-0.1
			平年比(差)	±0	122	130	+0.9
11.22	ラー麦 (ちくしW2号)	本 年	11.25	17.7	452	5.2	
		前年比(差)	-2	90	94	+0.3	
		前7年比(差)	-4	147	106	+1.3	
筑 後 分 場	11.22	シロガネムギ	本 年	12.2	18.4	387	4.4
			前年比(差)	+2	119	74	-0.7
			平年比(差)	+1	142	81	+0.1
	11.25	はるしずく	本 年	12.3	14.9	367	4.4
			前年比(差)	+3	73	68	-0.7
			前8年比(差)	+2	110	87	+0.3
11.25	はるしずく	本 年	12.8	11.9	524	4.6	
		前年比(差)	±0	85	98	+0.2	
		前9年比(差)	-1	109	131	+1.0	

注1) 平年値はH18~27年播の平均値。

2) この値は暫定値で、今後変更することがある。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス：平成28年11月～平成29年6月)